

# Community Design Cafe

コミュニティ・デザイン・カフェ(CDC)

たくさんの人が集い、「コミュニティ」を「デザイン」する  
そんな「カフェ」のようなセンターを目指します

CDC News Vol.026 2006.12  
生きがいしごとサポートセンター阪神北

## リーダーのネットワークをつくりましょう！

センター長 森 綾子

コミュニティ・ビジネスの起業を支援して5年。今年も多くの社会起業家が飛び立っていきました。その中には友達として懇意にお付き合いしている起業家もいて、本音で何でも相談しあいます。

介護系の事業者のSさんとTさんは、仲良しですが経営の仕方は全く正反対です。Sさんは、大雑把な性格で、誰をも大きな懐で受け止めます。そのため、スタッフがささいなことまでSさんに相談し、いつも何かしら（本人曰く）揉めています。楽天的なと積極的な性格のため、経営規模もどんどん膨らむ一方で、そんなに急に大きくしていいものかと気をもむ私です。本人は、必要だと思ふものを事業として増やしているだけと言っていて、他意はないようです。

先日も相談に乗って欲しいといわれ、私とTさんは話を聞きました。辞めたスタッフが、起業するか、もう一度元に戻りたいと言ってきたそうです。

Sさんが仲間にどうしたらいいか聞くと、全員がいろいろな意見を言うので決まりません。そこで私たちに判断して欲しいと言うのです。

相談をうけたTさんは「一度やめた人の相談には乗らないし、戻さないほうがいい。辞めたのには理由があったわけだし、戻ってもうまく行かないだろう」と言う意見です。

Tさんは、はっきりとした性格で、後追いはしないタイプです。そのせいか、トラブルは余りなく、気持ちも引きずりません。

Sさんは悩んだ結果、戻さないことにしました。それが逆に恨まれる羽目に陥りました。その人は絶対自分の面倒を見てくれると信じていたのでしょうか。親切に相談に乗り、考え苦しんだのに、喜ばれませんでした。

NPO 法人では意思決定のしくみとして、理事会や総会はあるものの、人事に関してはリーダーの判断に任せがちです。うまく行かなくなった場合の責任も直接個人に覆いかぶさることになってしまいがちです。それがとても辛いのです。

組織を確立するとき、人事課が欲しいと思うのは、このように人間関係が崩れた場合です。

後日、私たち起業家3人は飲みながら慰めあい、再びみんな元気になりましたが、これも仲間がいたおかげです。

リーダー同士のネットワークは、悩んだり、迷ったり、傷ついたりしんどくなった時、同じ立場なのでよく分かってもらえ、支えてくれるので本当に大切です。この仕事をして良かったと思うのはこんな時です。

これからも社会を良くするための仕事をする人たちとの心地よい関係を大切にしたいと思います。

あと少しで新年となります。今年1年、皆様には大変お世話になりありがとうございました。来年もどうかよろしくお祈りします。

それから、本年度より年賀状をこのニュースレターに替えさせていただくことにしました。どうかお許しください。 それでは良いお年を！

## 研修報告 (2006.10/14~15) 事務局とリーダーのための1泊研修会

今回初めて NPO リーダー研修に参加しました。会場は、兵庫県の中央あたりに位置する東条湖近くの別荘地。(特)国際エンゼル協会の研修所で「山のイスキア(癒しの場所)」と呼ばれている所です。お昼に宝塚を出て、1泊3食付の研修でしたが、料理も素材を活かした美味しい旬のものに加え、ヨーガも取り込んだ研修もあり、非常に健康的でした。



初日は、欧米で企業経営も経験された釣島先生による「海外のコミュニティービジネス事情」というお話を聞きました。

### 各国でのコミュニティービジネスの特徴と日本

英国では英国病を克服するためサッチャーブレア首相による政府主導の民活による取組みとしてコミュニティービジネスが行われた。

米国では大別して、週給8ドルの人がそこから2ドルを寄付するキリスト教的寄付精神をベースに集められたお金で行なわれる事業と、アメリカンドリームを成就した富裕層が提供する潤沢な資金による事業がある。

但し日本では、欧米とは社会背景が違いため、日本らしい活動を展開することが重要。

### 社会起業家のもつべき重要な要素

- ・ ビジョン=夢、パッション=情熱、ミッション=使命感。
- ・ 経営者の視点から、「ステークホルダー」(資金提供者、メンバー・従業員、サービス提供先等)に対し「経営理念」(何を指すのか?)を浸透させること。
- ・ 「ドメイン」(事業領域...誰のどんなニーズにどんなサービスを提供するのか)の明確化、ポジショニング(ユニークな地位)を築くこと。更には環境の変化に対応することが非常に重要。



2日目のワークショップは、金森講師の課題提起により、自

分の団体のフルタイムスタッフからみたリーダー像を、海外の事例も参考にしながら、3班に別れて考えました。

日本の NPO は会社会的な雰囲気(指示するものとされるものが多い)のところが多いが、欧米は全員がそれぞれのセクションのリーダーになり、自負と役割を担っている。

リーダーには、社会起業家としてまずパッションが必要だが、組織を運営していくのに、メンバーの意見を聞くコミュニケーション能力、違った意見をうまく調整するバランス感覚、集金力、自分たちのことを PR していく広報力、日々の対応だけでなく周囲の変化にも対応させ活動を持続させていくための運営(経営)者としての能力などが重要で、これらがそろってはじめて事業が継続できることを話し合いました。(=サステナビリティ)



藤崎講師によるストレス解消ヨーガは、初日は最上階のロフトに全員集合し

30分のお話と2時間の実習でした。日ごろの疲れが開放されたのかリラックスタイムにはイビキをかく人もいました。翌朝の第2弾では、皆早朝から起きられるのか?と思いきや6:30からのほぼ全員が参加。庭に出て、朝露で少し湿った芝生の上で鳥や虫の声を聴きながら気分よくゆったりと体を動かしました。中年・熟年になってくると将来のために如何に健康でいられるよう心身を整えていくかが非常に重要になってきます。

NPO 活動も まず体が基本と再認識しました。偶然、高校の同期生が何十年ぶりに再会!!などのおまけもあり、阪神間の NPO と「(特)おおさか元気ネットワーク」のメンバーが本音でどんだんものを言い、お互いに刺激し合えた、実りの多い研修でした。(宝塚 NPO センター理事 遠座俊明)

## 新米事務局のための実務講座

## SOSを言えますか？

NPO法人が30,000を超えるであろう今年、当センターでの相談内容の比率も「法人化」から、「運営相談」や「マネジメント」に大きく変化してきました。

組織の成長過程でいえば立ち上げ期から、発展期・成熟期を迎えた団体が増えてきたという事でしょう。

設立当初は、たいてい少人数なので顔の見える関係ですし、やる気満々なので、少々問題がおきても、なんとか“みんなで”解決できます。

しかし活動が社会に受け入れられ、規模も拡大し、経営的にもなんとか安定してきた時、多くの団体が陥る悩みがあります。

## 「想い」が負担になるとき

市民活動からNPO法人になった団体であれば、心当たりがあると思いますが、「想い」を大切に活動を続けてくると、規模が大きくなるにつれてやるべきこともどんどん増えてゆきます。

目の前の課題に対して、見てみぬふりはできないし、かといってどこまでやっても満足とはいえない。

そこで、ついつい無理を重ねてしまう。

責任感の強い“できる人”ほど疲れ果て燃えてつきてしまう。その結果として、団体は大切な人材を失ってしまいかねません。

## 「助けて！」を言う練習

このような残念な事態に陥らないためには、どうしたらいいのでしょうか？

それには、問題を自分だけで抱え込まず、早い段階から、広く助けてくれる人を募る事が大切です。

できる人にとって助けてと言うことは、何となく抵抗を感じたり、必要以上に遠慮してしまったりという傾向があります。

あなたもそんな一人ではありませんか？

## 助けてもらうことのハードルを越える

そのように感じてしまう自分に気づいた時、「このことを頼む事が、相手にとっても何か得ることがあるのではないだろうか」とこう考えることで、ずっと抵抗感は少なくなるのではないのでしょうか。



助けてくれる人はどこに？

NPOの団体にはボランティアとして参加してくれている人がきついていると思います。

ボランティアはありがたい存在ではありますが、半面、自発性を基本とするため“いつ来るか今ひとつ当てにならない、活動に時間がかかる人たち”というポジションとなっているかもしれません。

そのため、いつのまにかコアメンバーだけでも何でもやっしまい、ボランティアには本筋ではない簡単な作業だけをやってもらっている…そんな組織になっていないでしょうか。

活動が長くなると、どうしても運営だけで精一杯で「他の団体とのネットワークなんて時間も人手もないし、できない」というふうな考えがちですが、自分達だけで課題解決ができることはありません。

そういう時こそボランティアに交流の場に出てもらうことで情報が共有できますし、また個人にとっても何かを得る良いチャンスとなるはずです。

そしてネットワークの仲間も大きな力になってくれることでしょう。具体的な労力でなくとも、違う分野で活動しているからこそその視点で新たな解決方法に気づかせてくれることはよくあることです。

また会員の中にも「呼びかけてくれれば手伝ったのに」という人もいるかもしれません。

会員になるということは、すくなくとも団体の活動を応援、支持してもらっているのですから一番身近な頼りがいのある相手ではないのでしょうか。

## 活動は持ちつ持たれつ

助けてもらうためには、きちんとした説明も必要です。なぜ、この仕事が必要なのか、これをやることでこういう成果が得られるなど、価値観や想いを共有する事が大切です。

限られた個人の善意に頼るのでなく、多様なマンパワーを活かして相乗効果のある、豊かな団体活動にしてゆきたいものです。

(田淵)

## 講座・相談のお知らせ

印の実施場所は生きがいしごとサポートセンター阪神北です

会計実務：「補助金を取った団体のための会計処理＆報告のポイント」

2007年2月1日(木) 13:30~16:30 参加費 1000円

情報発信：「新・ブログ講座」 2007年1月10日(水)・1月20日(土)・1月24日(水)

毎回 10:30~12:00 参加費：1000円(1団体)

就業支援：あなたと仕事について考える「キャリアカウンセリング」(1回 50分)無料  
事前にご予約ください。

コミュニティサイト大集合！(NPO ブログ・バスマップ・地域安心お助けネット・宝塚まちづくり協議会)

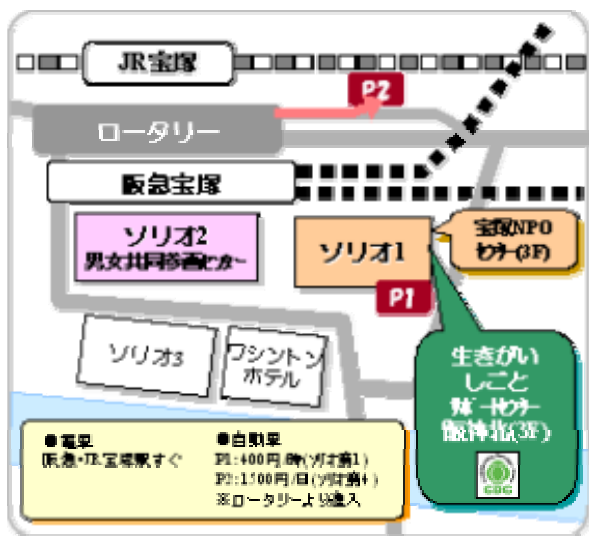
阪神・宝塚・川西の地域情報ポータルが始まります。地域サービス情報や宝塚などのまちづくり情報が盛りだくさん。日々のちょっとした困りごとにも相談でき、身近でタイムリーな情報をお届けします。

<http://www.hnpo.comsapo.net>

ひきつづき、お願い 従来よりお願いしておりましたニュースレターのお届け方法の件ですが、順次、郵送からE-mail送信(PDFファイル版)へ、切替えをさせて頂いております。これからも、よりタイムリーな情報提供を心がけていきますので、皆様のご協力を何卒よろしくおねがいいたします。なお過去のニュースレターはホームページからご覧いただけます。 <http://voluntary.jp/hnpo-net>

### 編集後記

携帯用ラジオが欲しいんです。いまだきなんでラジオ？とお思いでしょうかこのラジオ、予約が超簡単で30時間録音できるのです。それで毎朝4:15からの「こころの時代」という番組を聴くんです。いい番組ですよ～(かなりきています)。サンタ様、神様、イノシシ様どうぞよろしく。[このところねむれないY]



生きがいしごとサポートセンター阪神北

～コミュニティ・デザイン・カフェ(CDC)～

〒665-0845 宝塚市栄町 2-1-1 ソリオ 1-3F

TEL&FAX 0797-87-4350/4351

E-mail [cdc@hnpo.net/](mailto:cdc@hnpo.net)

URL <http://voluntary.jp/hnpo-net/>



(特)宝塚NPOセンター

〒665-0845 宝塚市栄町 2-1-1 ソリオ 1-3F

TEL&FAX 0797-85-7766/7799

E-mail [zukanpo@hnpo.net](mailto:zukanpo@hnpo.net)

URL <http://voluntary.jp/zukanpo/>



「生きがいしごとサポートセンター-阪神北」は、兵庫県「コミュニティ・ビジネス等生きがいしごと支援事業」の補助を受けて、特定非営利活動法人宝塚NPOセンターが実施・運営しています。同事業は、生きがいしごとサポートセンター-播磨、生きがいしごとサポートセンター-神戸西(ウェクス)、生きがいしごとサポートセンター-神戸東(ワラビー)、生きがいしごとサポートセンター-阪神南(UN)の5拠点にて運営されています。